

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**堺市立三原台小学校
校長 西村和裕

中学校区におけるめざす子ども像	自己肯定感が高く、他者への思いやりある児童・生徒の育成
-----------------	-----------------------------

令和5年度 重点目標	心身ともに健康で、創造力に富んだ 主体的な児童の育成 (知・徳・体の調和のとれた児童の育成)	◆求める児童像	・考え方する子 (創造性)	・協力する子 (協調性)	・やりぬく子 (自主性)
◇子どもに示す目標	みんな仲よし三原台っ子 (豊かな心の育成) 誰とでも元気にあいさつ三原台っ子 (豊かな心の育成)	はつらつと体力アップ三原台っ子 (体力向上) いつも自分で考え方発表できる三原台っ子 (思考力と表現力の育成)	らくらくと読書 100 冊三原台っ子 (読書活動の推進)		
◇教職員に示す目標	総合的な学力の育成 子ども理解 (特別支援と人権)	教師力・チーム力の向上 信頼される学校・開かれた学校			

「確かな学び」の現状	「豊かな心・健やかな体」の現状
<p>コロナ禍も収束の様相をみせ、学校生活も3年前に戻りつつある。授業改善をめざし取り組んできたが十分交流形態がとれずにきた3年間だった。今年度は児童が自分の考えを班で交流したり、全体発表したりする機会を増やしていきたい。また課題として、集団生活になじめず学習に気持ちが向きにくい児童の学びに向かう力や学力向上ために、学校群をベースに「特別支援教育の視点に立ったすべての児童がわかる授業づくり」に取り組んでいきたい。また基礎基本の学習を繰り返し行うことや家庭学習・自主学習の定着にも重点を置く。さらに授業時のタブレット端末の活用時間を増やし、GIGAスクール構想の推進をおこなう。</p>	<p>コロナ禍は児童の心や体力に大きく影響をもたらし、集団生活になじめない児童の増加や体力低下が課題となっている。現在、個別の支援をおこなっていくことが必要な状況は多くあるため、今年度は学校群をベースに、特別支援教育に立った個別最適な学びの実現をめざし取り組んでいく。また協働的な学びを通して、子どもたちの「自己肯定感」「思いやりの心」を育てていただきたい。この3年間で低下しつづけている体力面については、全校あげて体力向上の組織的な取組をすすめたい。授業での体力づくりの準備運動を共有し、日常生活や家庭でできる体力向上の取組などを推進し、さらなる全学年児童の体力向上をめざす。</p>

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (~9月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	考え方する子の育成	すべての児童がわかる授業づくり	●堺版授業スタンダードに基づいた「考え方する子の育成」に向けた授業づくり。	全クラスでの堺版授業スタンダードの実践。(めあて・見通し・ふりかえり)	授業見学 研究授業検討会	年度末	○	授業スタンダードをもとにどのクラスもおぼえね実践できている。	○ 授業参観でもすごく丁寧に授業されている。子どもたちもよく理解して発言もしていよかったです。「全員がわかる授業」や堺版授業スタンダードの授業で子どもたちが実践できていることは評価できると思う。
			★つまづきと深まりを意識した特別支援と教科学力の両面からの授業づくり。(学校群でのめあて「誰一人取り残さない、わかる授業づくり」の推進)	自分の考えを書いたり、発表したりしていることに8割の児童が肯定的回答をする。	堺市児童アンケート 調査	年度末	△	発表の型の提示で、どの子も考えを発表できているが、授業づくりの研究が疎行錯誤中。	○
基礎学力の充実	基礎学力の定着	・授業の流れや自分の考えがわかるノートづくり。 ●基礎学力の定着を図る取組(家庭学習の定着)	8割の児童が自分の考えを文や絵図でノートにまとめることができる。	授業見学 担任確認	年度末	○	授業の流れや自分の考えを工夫してまとめている児童が増えている。	○ 話す・聞く・書く・読む力全て堺市平均値を上回る。【学テ】また算数では、データの活用問題で堺市平均を大きく上回る。【すぐくすくウォッチ・IRT】	○ 堀市平均を上回ることは引き続きめざしてほしい。基礎学力の徹底はしてもらいたい。タブレット活用も子どもたちが慣れてきているようで、すんで使っている。
			●GIGAスクール構想推進(一人1台のタブレット端末活用の充実を図る)	3年以上の学年で、週3回以上のタブレット使用。	堺市教員アンケート 調査	毎学期	○	9月末、3年生以上で平均週3回以上のタブレット使用ができている。	○
豊かな心・健やかな体	生習慣の改善	子ども理解	★集団になじめない児童の居場所づくりと、小中9年間を見通した児童理解・教育支援。(学校群がベース) ●いじめ・不登校の早期発見・早期対応につとめる。	校内支援委員会をもとに児童理解を深め学校群をも含めた組織的取組を行う。 いじめ・不登校への早期対応	学校アンケート いじめ早期解決 不登校数減少	年度末	○	校内支援委員会の定期的開催で児童理解や、リソースルーム開設による不登校早期対応が進んでいる。	○ リソースルームの活用や、校内支援委員会での児童の情報共有、また生指主任を中心に組織的に協力して対応できた。代表委員会のあいさつ運動を毎週実施。図書室では定期的に新刊が並び、廊下には季節ごとの掲示物。PTA 読み聞かせ実施。みんなくアンケートと面談実施やみんなくアプリの活用を行い児童に啓発授業も行った。
		基本的な生活習慣の定着	・自分からすんであいさつする子どもの育成。 ・「読書活動」の充実。	あいさつ運動の啓発・取組 図書館教育の推進	堺市児童アンケート 調査	年度末	○	代表委員会あいさつ運動実施。図書館の環境整備と読み聞かせ啓発。	○
体力向上	体力向上	・「みんなく」「家での7つのやくそく」を軸とした生活習慣の改善。(学校群をベースに取組む)	みんなくアンケート実施分析 みんなく授業・児童への啓発	みんなく授業の全クラス実施 みんなく授業・児童への啓発	年度末	○	はよねるデーなどのみんなくの啓発。睡眠朝食調査票実施・面談予定。	○	リソースルームを活用することの有用性は評価されると思う。学校とPTA・児童が協力する体制がいじめなどの問題を解決するのに必要な力を入れてほしい。みんなくをより進めてほしい。青バトに乗っているときは子どもたちもすごくあいさつしたり手を振ってくれたりするが、道で会ってもあいさつがないのは残念。
			・体育授業での基礎体力向上に向けた取り組み。 ・体力向上への子どもの意識の変化。	柔軟性の計測値アップと反復横跳び(敏捷性)の記録向上が図れている。	スポーツテストと1ヶ月での計測値比較	年2回計測時	△	基礎体力向上に向けた動画作成で運動への意識の変化がみられる。	△ 音楽に合わせた準備体操が週1回にとどまり結果は横ばい。体育委員会でなわとび運動の啓発を行い、多くの児童が20分休みに体育館で縄跳びに取り組めた。
開かれた学校	保護者・地域への情報発信と幼保小中も含めた地域共同体づくり	・委員会中心に外遊びをする子どもを増加させる。 ・家庭と連携した体力向上の取組。	自主学習としての体力アップに取り組む児童の増加。	学校教育自己診断アンケート	年度末	○	秋から縄跳び活動に向けて委員会活動で環境整備に取り組んでいる。	○	体力・視力の低下がありとても残念であります。体力の低下は防ぐための工夫、遊びを通じて体力アップをはかれる取組や工夫をしてほしい。
		・HPや「学校だより」等による情報発信。 ・堺版地域コミュニティスクールの体制づくり。 ・地域行事への協力・積極的参加。	全年HP毎日の更新。アクセス300。 地域人材活用、出前授業の実施。 地域行事に協力・参加。	HP毎日更新 出前授業複数回実施 地域との交流増加	年度末	○	HP日々更新で地域に情報発信。地域行事(みはらまつり・文化まつり・地域清掃)児童も参加。防災教室出前授業4年生で実施。学校群で小中連携強化、1.5年ワクワクひろばで保幼小交流。みんなく他市訪問あり。	○	地域との連携をこれからもよろしくお願いします。支援学級の3校連携を進めてほしい。役員をすることで、いろいろ行事があり先生の大変さがすごくわかりました。いつもありがとうございます。
保護者・地域への情報発信と幼保小中も含めた地域共同体づくり	★幼保小中連携の「みんなく」の取組を行う。 ・幼保小中の交流と連携を行う。	みんなくリーダー研修参加。 幼保小中の交流。	学年・学校での取組	年度末	○	夏季研修においてみんなくや特別支援をテーマに幼保小中で学んだ。	○	地域との連携をこれからもよろしくお願いします。支援学級の3校連携を進めてほしい。役員をすることで、いろいろ行事があり先生の大変さがすごくわかりました。いつもありがとうございます。	

校長より(年度末) 今年度は5月にコロナ感染症が5類となり、働き方改革の視点から行事の精選も行われ、学校生活もほぼコロナ前にもどりつつあります。そんななか「確かな学び」の取組はテーマを「すべての児童がわかる授業づくり」とし、特別支援教育の視点をベースに教室内のすべての児童がわかったと実感できる授業をめざしました。これは学校群の「特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育の実施」のテーマと重なるところで、9年間を見通しながら、日々の授業実践を心掛けてきました。さらに日本語指導研修の講師臼井教授の指導も受けつつ、全教職員で授業のスキルアップを図る取組ができました。「豊かな心」では、学校群での取組の一環としてリソースルームを活用し、児童が安心して学習できるよう支援をしてきました。来年度は中学校区での共通の働きとなるようさらに連携して進めていきたいです。また「みんなく」や「体力向上」の取組も授業や委員会活動のなかで推進してきました。「地域連携」では、戻りつつある地域行事に児童の積極的参加を促し、児童の活躍の場として活用したり、地域人材資源として学習指導に参加していただきました。来年度も学校群の取組をベースにいろいろな領域で連携し、児童の学力向上と体力向上、また小中交流等により三原台中学校区全体で豊かな心の育成に取り組んでいきたいと思います。

学校関係者評価者から(年度末) 授業での取組は丁寧で「全員がわかる授業」をテーマに成果がみられる。GIGAの活用よくできている。子どもたちに対し優しく接してくれるのでとてもいいが、一方で厳しく接することも必要なでは、学校群の取組が充実することを望むが、先生方の負担にならないようにすべき。小中の情報共有もより密にできればいい。体力の低下が課題であるので、体力アップのための工夫をしてほしい。たとえば握力や反復横跳びなどの計測を遊び感覚でいつもできる環境を整えることができればいい。HPでの情報発信・地域連携はとてもいい。